

岩手医科大学附属 花巻温泉病院



主な内容

- 巻頭言 ——— 医学部長就任挨拶
事務局長就任挨拶
 - 特集 ——— 地域医療課題解決演習
～地域とともに考え、つくる医療教育～
 - トピックス ——— 第4回岩手医科大学跡地活用検討会議が開催されました
- 表紙写真：岩手医科大学附属花巻温泉病院閉院式（関連記事p.7）

医学部長就任挨拶

医学部長

佐々木 真理

(超高磁場MRI診断・病態研究部門 教授)



この度、4月1日付けをもって佐藤洋一前医学部長の後任として医学部長を拝命いたしました。何卒よろしくお願い申し上げます。

医学教育は変革の時期を迎えています。日本医学教育評価機構の医学教育分野別評価では、国際基準の質保証を図るべく、臨床実習充実化やアウトカム基盤型教育導入などが求められています。専門科目を低学年で集中履修し、コンピュータ共用試験（CBT）や客観的臨床能力試験を突破し、診療参加型臨床実習と座学を両立させ、医師国家試験に臨まねばならない学生の負担は大きく、教職員一丸となって学生教育に取り組んでいかねばなりません。

これまでも佐藤前医学部長の陣頭指揮の下、学生教育の充実と改善が全力で進められてきました。CBTの成績が向上し全国平均を上回ったのは大きな光明です。しかしながら、国試合格率の低迷などの深刻な問題を解決するには至っていません。低学年の生活態度は成績や国試合否に直結しており、指導体制のさらなる充実が必要です。専門科目の履修環境の効率化、臨床実習中の国試対策の充実化、成績下位者に対する少人数教育などの方策は一定の効果をあげつつあり、今後さらに進めていく必要があります。医歯薬看4学部が同じキャンパスで共に学ぶ強みを生かした多職種連携教育などを通し、チーム医療を担う医師としての自覚を早期に醸成することも極めて重要です。

卒後教育に関しましても、高等教育・研究改革イニシアティブによる大学院改革が喫緊の課題であり、新専門医制度や働き方改革と相まって難しい舵取りが求められています。学位と専門医の取得を支援する卒後教育体制の整備を早急に進めてまいります。

附属病院移転がいよいよ本年9月に迫り、その準備が着々と進んでいます。この大事業を円滑に進め、矢巾新附属病院と内丸メディカルセンターを順調にスタートさせるには、教職員の力の結集が不可欠です。また、移転後の研究環境整備も重要な課題です。本学の研究の特色は、学部・講座の垣根を超えた学際的研究体制にあります。これまでも学術研究高度化推進事業、戦略的研究基盤形成支援事業などで多くの共同研究が成果を上げてきました。今後も、医歯薬総合研究所やいわて東北メディカル・メガバンク機構による共同研究支援、研究推進委員会による外的資金獲得支援、臨床研究支援センターによる橋渡し研究支援などをさらに推進していく必要があります。また、近年の業務の増加や複雑化による教職員の疲弊が顕在化しつつあり、その効率化にも取り組みたいと考えています。

課題山積の時期に、そして改元および附属病院移転という節目の年に、このような大役を仰せつかり身の引き締まる思いです。微力ながら全力で職責を果たす所存ですので、今後とも教職員の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

事務局長就任挨拶

事務局長
高橋 真



この度、吉田達朗事務局長の後を受けまして、4月1日付で事務局長を拝命いたしました。身に余る大任ではありますが、微力ながら奮励努力してまいる所存でありますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

現代社会は様々な事象が複雑高度に絡み、変化が早く、不安定で予測不可能な時代と言われております。中央教育審議会は、このような中で大学が使命を十全に果たすためには、大学運営の一層の高度化が必要であるとして①教員と事務職員等が大学運営に必要な能力を身に付け、向上させる組織的な取組の推進②大学の事務組織及び事務職員が当該大学の目標の達成に向け、大学運営の一翼を担う機能の一層の発揮③事務職員は単に指示された事務を処理するような業務に従事するのではなく、教員も単に教育研究に従事するだけでなく、大学の管理運営等に係る業務の増加に伴い、事務職員等と適切な役割分担の下に協働して業務に取り組むこと等を提言し、大学設置基準にSDの義務化や事務の対象拡大、教職協働の推進が盛り込まれました。

中央教育審議会は、このように大学運営に積極的に関与する事務職員にはコミュニケーション能力、戦略的な企画力やマネジメント能力、複数の業務領域での知見（総務、財務、人事、企画、教務、研究、社会連携、生涯学

習等)、大学問題に関する基礎的な知識・理解等の資質・能力が求められると述べておりますが、これら全ての要件を職員個々の努力や能力に依存することは不可能に近く、また、事務の業務は広範に及びますので、現実的には、担当業務における責任と権限を明確にし、職員の適性を活かす組織的な対応が肝要と考えております。

本学事務局の現状を鑑みると、大学の事業拡張に伴い、組織の拡大と業務の細分化や専門化が進む一方、過去の採用抑制による働き盛りの年齢層の欠落という構造的な問題に直面しております。そこで、矢巾移転を機に事務分掌を見直し、部門を集約して業務の効率化と連携強化を図るとともに、人材の育成に努めつつ、将来に向けて、職員のキャリア形成に基づき専門性を高め、能力を発揮できるような体制の整備を検討することといたしました。

本学が大きな転機を迎えている今、世代交代の狭間にある事務局も分水嶺に立っておりますが、新時代を切り拓く大学運営の一翼を担い得る事務局にアップグレードしたいと考えております。何卒ご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特集

地域医療課題解決演習 ～地域とともに考え、つくる医療教育～

全学教育推進機構長 佐藤 洋一

平成 29 年 4 月 1 日、岩手医科大学は自由科目として、全学部・全学年が履修することができる「地域医療課題解決演習」を新設しました。本学創立者が、時代に先駆けて立ち立てた「チーム医療の理念」を、地域の中で、地域とともに考え、つくる医療を教育の場から実践するものです。本稿では、同科目の新設背景と演習内容について、実際の演習風景なども併せてご紹介いたします。

■ 科目新設の背景

本学は、創立当初から、地域医療人育成を使命に掲げ、その役割を果たしてまいりました。高度化した医療は、高度先進機能病院による教育を要求しています。他方、厚生行政は地域包括ケアを推し進めていますから、地域コミュニティをベースにした教育も行わなければなりません。本学の教育は、附属病院や関連基幹病院を中心におこなわれておりましたが、それだけではなく、各学部では初年次から地域医療の現場での実習などを取り入れてきました。ただ、残念ながら地域コミュニティとの連携は十分とは言えませんでした。

幸いなことに、平成 28 年に矢巾町長をはじめ役場の皆様のご理解とご協力を賜り、本学と矢巾町における「地域医療政策・教育分野における連携協定」が結ばれました。それによって平成 29 年から「地域医療課題解決演習」をスタートしております。

■ 科目内容

初年度である平成 29 年度は「矢巾町における認知症対策」をテーマに、翌 30 年度は「国保特定健診受診率及びがん検診受診率向上」をテーマに、10 名から 20 名程の各学部の学生が自主的に参加して、実施してまいりました。参加した学生からは、「各事業に取り組んでいる行政や諸団体の現場の方々との交流などにより視野が広がった」、また「自分たちで考えたことを町や大学に提案するということが大きな体験であった」など、今後医療人として活動する上で地域への介入を学ぶ、良い機会だったという声が届いています。

矢巾町で現場を担当している職員も参画してのグループワーク・フィールドワークでは、地域行政他各種団体における取組を学び、また他学部学生・地域住民との交流をとおり、普段の学内では得難い学びの機会となっています。

【科目の特徴】

- 課題を自ら見つけ、能動的に解決策を探る
- フィールドワークをふんだんに取り入れ、地域の中で患者をいたわること学ぶ
- 多職種連携教育「医×歯×薬×看護」
- 地域住民が医療人教育に参加する

【到達目標】

1. 対象とする医療課題に関する地域の現状と問題点を捉え、説明できる
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくり事業における各医療職の役割が説明できる
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる

プログラム（イメージ例）



■ 演習の様子

「能動的に或るテーマの問題点を見出して、解決策を考える」という Project based education は、一般的な講義とは異なり、構成学生の熱意と、それを見守るまわりのスタッフに成否がかかっております。当初の構想段階では、どのように形作っていきけるかわからないところがありましたが、この科目を履修する学生の姿、同科目に関わる地域の多様な方々との交流風景は、不安を払拭するものでした。同科目立ち上げ当初から尽力いただいております、総合診療医学分野の下沖教授のリードもさることながら、なにより、ご協力いただいた矢巾町の皆様の「私たち地域住民が、医療人教育に参加する」という意識が大きいように思います。

今年度のテーマ設定について

今年度の課題は、矢巾町との協議により「矢巾町における糖尿病対策」となりました。運営体制についても強化を図り、各学部からも指導教員に加わっていただくことができました。各学部各学年ガイダンスでも同科目についてアナウンスいただき、現在昨年度を上回る多くの学生から履修申請が届いているところです。より充実したプログラムとなるよう、コーディネーターである総合診療医学分野の下沖教授が糖尿病・代謝・内分泌内科分野の石垣教授をはじめとした指導教員の先生方からご意見をいただき検討を進めております。



課題共有のためのグループワーク



地域住民へのインタビュー



健診会場での調査

■ おわりに ～医療人を地域が育てる～

医療の中心にあるのは、病者であります。また、病者は地域社会の構成員であり、地域の中で生活しています。しかし、医療人教育では、とすれば病者を病院の中に限定してしまいがちです。この試みは「地域の中で病者をいたわる」ということの意味を学生が研修するというのが目的ではありますが、あわせて「医療人を地域が育てる」という意義が大きいように思います。矢巾町の皆様に育てていただいたという思いを学生が胸に秘めて、人間的に成長していくことを願い、今後も同科目の発展を目指してまいりたいと考えております。

高度看護研修センター特定行為教育課程修了式が行われました

3月4日（月）、創立60周年記念館10階会議室において、高度看護研修センター特定行為教育課程の修了式が行われ、1年間の研修を修了した呼吸器関連コース3名、創傷管理関連コース2名の研修生が寺山センター長から修了証書を受け取りました。

式では、寺山センター長から「今後は各自の臨床現場において、習得した技能を遺憾なく発揮していただきたい」と激励の挨拶がありました。また、研修生を代表して岩手県立胆沢病院の小野寺真知子さん（写真）は「研修で習得した能力をもとに、看護の専門性を発揮できるよう日々精進していきたい」と決意を述べました。



第4回岩手医科大学跡地活用検討会議が開催されました

3月13日（水）、創立60周年記念館10階会議室において、第4回岩手医科大学跡地活用検討会議が行われました。本会議は矢巾町への本学移転にあたり、内丸地区の跡地活用を協議することを目的として、岩手県、盛岡商工会議所、盛岡市、本学の4者によって構成される会議です。

第4回となる今回は、本学から平成30年度の活動報告として、先進施設事例視察や附属病院移転に係る進捗状況・患者搬送計画についての報告が行われました。会議で小川理事長は「大正15年に建設された本学1号館を保存する方針に変更はない。今後は将来を見据え、より一層4者が一丸となって計画を進めていく必要がある」と述べました。

来年度の取り組みについては、先進事例視察を継続し、検証を深めるとともに、地元町内会・商店街等との意見交換を行っていく予定です。



第5回cMRI2公開シンポジウム—脳と心の健康のための異分野融合ニューロイメージング—が行われました

3月18日（月）、創立60周年記念館10階会議室において、第5回cMRI2（Core of Multidisciplinary Research for Medical Imaging 2）の公開シンポジウムが行われ、学内外から約50名が参加しました。

本催事は文部科学省の補助を受け、平成26年度にスタートした「異分野融合による脳と心の健康のための介入的ニューロイメージング」研究プロジェクト（研究代表者：佐々木 真理教授）の成果発表の場として開催されました。当研究プロジェクトでは認知症やうつ病などの高次脳機能障害・精神機能に関わる疾患の病態解明や低侵襲な発症前診断・早期診断法の確立を目指しており、当日は活発な質問や意見交換が行われました。



株式会社こすかたサービス様からの救急車両贈呈式が行われました

3月26日（火）、循環器医療センター正面玄関において、株式会社こすかたサービス様からの救急車両贈呈式が行われました。

この救急車両は救急医療体制の強化と本学附属病院の発展に寄与することを目的として寄贈されました。小川理事長は贈呈式で「ご期待に添えるよう矢巾新病院ではより高度な救急医療体制をつくるとともに、充実した設備で将来の地域医療を担う学生教育に励んでいく」と述べました。

今回の寄贈車両は、内丸キャンパスの附属病院で運用を開始し、本年9月以降は主に矢巾新病院で活用されます。



（左から：祖父江学長、小川理事長、株式会社こすかたサービス・高橋代表取締役、菅沼本部部长）

岩手医科大学附属花巻温泉病院の閉院式が行われました

3月28日（木）、花巻温泉病院機能訓練室において、花巻温泉病院の閉院式が行われ、同病院に勤務する教職員約50名が参列しました。

同病院は神経内科や整形外科など7つの診療科を標榜し、源泉を利用した温水プールや180㎡超の広い機能訓練室による充実したリハビリテーション機能が特徴でした。平成5年7月に当時の厚生省から本学に経営が移譲されてから、これまで地域医療を支えてきましたが、昭和47年竣工の建物は老朽化が進み、川のうえに立地する特異な環境のため再建が難しく、約26年の歴史に幕を閉じることとなりました。

閉院式では小川理事長、祖父江学長、一戸花巻温泉病院院長より挨拶がありました。小川理事長は「歴史ある花巻温泉病院を閉院することになったのは非常に残念だが、この病院の役割は9月に開院する矢巾新病院が担っていく」、祖父江学長は「医療資源を有効に使い、地域医療を支えてきた功績は大きい。大学として心より感謝する」、一戸花巻温泉病院院長は「地域に密着した病院という使命を十分に果たせたと思っている。これまでのご尽力に感謝したい」と述べました。

閉院後の医療に向けて花巻市では、定期バス便の整備など、矢巾新病院へのアクセスを強化する予定です。



名誉教授称号授与式が行われました

4月1日（月）、創立60周年記念館10階会議室において、名誉教授称号授与式が行われました。

式では、小川理事長が名誉教授の称号を授与し、これまでの大学への貢献に対して感謝の言葉を送りました。



後列左より

佐々木真理医学部長、小林誠一郎副学長、三浦廣行副学長

前列左より

佐藤洋一名誉教授、小川彰理事長、祖父江憲治学長、江原茂名誉教授

平成31年度新入職員辞令交付式が行われました

4月1日（月）、歯学部4階講堂において、平成31年度新入職員辞令交付式が行われ、216名が岩手医科大学の一員となりました。

式では新入職員を代表し、頭頸部外科学科・助教の宮口潤さんが、小川理事長より辞令書を受け取りました。また、看護部・東8階病棟看護師の齊藤美鈴さん（写真）は「日々の感謝を忘れず、病める人々に笑顔と光を一つでも多く照らすことができるよう日々努力して参ります」と力強く誓詞を述べました。





中央放射線部 菅野 茂 副技師長と西3階B病棟 吉田 貴子 看護師は 医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました

本学附属病院中央放射線部・菅野茂副技師長と西3階B病棟・吉田貴子看護師は、長年にわたり大学病院関係の業務に尽力し、その功績が顕著であったとして、平成31年度の医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。

菅野茂副技師長は、本学附属病院において38年の長きにわたり診療放射線技師として業務に精励し、歯科医療センターや高度救命救急センターの診療に従事するなど、本学の発展に大きく貢献されました。また、平成30年からは副技師長として、中央放射線部全体の資質の向上を図るとともに後進の教育・育成に尽力されました。

吉田貴子看護師は、36年の長きにわたり集中治療部、小児科病棟、消化器内科病棟、婦人科・皮膚科病棟において、専門知識や技術に基づいた看護を実践し、質の高い看護ケアを提供されました。また、後輩看護師や看護学生の指導や育成、部署内の問題解決に向け建設的な意見を提言し、リーダーシップをとり、附属病院の医療・看護を支えました。その他、看護研究にも熱心に取り組み、感染に関する演題が日本看護協会より優秀演題として採択され、2013年ICN（国際看護師協会）大会で発表するなど、看護の知識と技術の向上に貢献されました。



(左から：吉田看護師、小川理事長、菅野副技師長)

中央放射線部 鎌田 雅義 主任診療放射線技師と菊池 啓 診療放射線技師が 画論26th The Best Image において、2部門で最優秀賞を受賞しました



(左から：菊池技師、鎌田主任診療放射線技師)

この度、画論26th The Best Image（平成30年12月16日、東京国際フォーラム）において、鎌田雅義主任診療放射線技師がCTの1～160列部門で、菊池啓技師がAquilion ONE（320列）部門で、それぞれ「最優秀賞」を受賞しました。

画論は、画像診断技術の発展と医療貢献を目的として1993年に設立された学術イベントで、診断・治療に必要な臨床画像のクオリティ、撮像・処理技術の工夫、臨床的価値や討論など総合的に審査が行われます。

今回、1～160列部門では「精索静脈瘤」、Aquilion ONE部門では「右上肢AVM*」という演題を応募しました。「精索静脈瘤」は病態を新しい視点で画像化し、詳細な解析を行った点が、「右上肢AVM」は被ばく低減を考慮しながら320列CTならではの撮影範囲の広い動態撮影を行った点が評価されました。

受賞にあたりご指導ご鞭撻いただいた放射線医学講座・吉岡邦浩教授、田村明生助教、川島和哉助教、中央放射線部・佐々木忠司主任、太田佳孝技師に深く感謝申し上げます。

(文責：鎌田 雅義、菊池 啓)

*AVM：動静脈奇形

大学報原稿募集

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、サークル紹介、学報への感想など、幅広くお受けします(表紙写真も募集しています)。

また、特集してほしいテーマや各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

連絡先

大学報事務局（法人事務部総務課）
内線 4220
kouhou@j.iwate-med.ac.jp

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第27回目の御芳名紹介です。(平成31年1月1日～平成31年2月28日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等（5件）

<1,000,000>

医療法人 盛紀会 鳥羽整形外科医院（岩手県大船渡市）

<500,000>

医療法人 宣誠会（福島県郡山市）

<ご芳名のみ>

医療法人 敬仁会 遠藤医院（宮城県塩釜市）

医療法人 一舟会 みうら産婦人科医院（岩手県盛岡市）

医療法人 銀杏会 コパヤシデンタルクリニック（岩手県盛岡市）

●個人（26件）

<1,000,000>

村井 啓子（医23）

柳下 正人（父母）

玉田 博志（医39）

<500,000>

佐藤 英俊（他46）

藤井 謙（医27）

<100,000>

遠藤 威（医43）

五島 頼子（父母）

近藤 康弘（歯12）

<50,000>

工藤 敦子（医35）

西澤 徹（父母）

<10,000>

長谷部 勝広（父母）

<ご芳名のみ>

後藤 康文（役員）

川村 洋行（父母）

長谷川 靖（父母）

風間 吉也（医2）

志賀 伯弘（父母）

金子 信一郎（歯3）

小川 俊彦（医30）

佐々木 祐肇（父母）

岡田 将彦（父母）

吉村 治彦（医41）

市成 秀人（父母）

向井 清人（薬4）

遠藤 芳彦（医36）

鈴木 ゆき子（歯14）

佐藤 春彦（父母）

区分	申込件数	寄付金額（円）
圭陵会	892	551,785,089
在学生ご父母	713	375,070,000
役員・名誉教授	82	110,380,000
教職員	213	28,842,000
一般	93	31,350,000
法人・団体	304	913,424,000
合計	2,297	2,010,851,089

（平成31年2月28日現在）

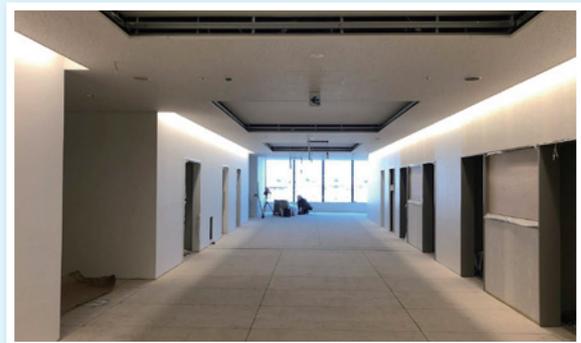
矢巾新病院新築工事進捗状況

矢巾新病院の建設工事は、内装仕上げの最終段階に入っており、併せて外構工事を行っています。トクタヴェール（店舗棟）やコスモス館（健康プラザ）も建物の骨格が現れ、大きさが分かるようになってきています。本学ホームページでは、工事の進捗状況を掲載しておりますので是非ご覧ください。

【岩手医科大学附属病院 移転計画ブログ】 <https://iten-iwate-med.blogspot.com/>



南東方向から撮影



2階外来待合

<撮影日：平成31年3月20日撮影>

定年退職を迎えられた教職員の皆様、長い間お疲れ様でした

本年3月31日付で定年を迎えられた皆様には、長い間岩手医科大学発展のためにご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。



5列目 寺崎 一典 浅沼 修 岩渕 修 中屋敷 徳 菅野 茂 昆 浩 工藤 義之
 4列目 上野 茂雄 小野寺 正二 櫻田 潤子 菊地 早苗 外山 範子 佐藤 久美子 小山田ルミ子 中村 実 立花 康彦
 3列目 浦波 るみ子 佐々木 里美 仁手 由美子 及川 和香子 松岡 章子 中村 立子 芳賀 真理子 澤口 民子
 2列目 一戸 貞文 江原 茂 奥村 千珠子 小野 道子 瀬田 かや子 菊地 宮子 及川 幸美 守谷 正子 寺山 靖夫
 1列目 佐藤看護部長 嶋森看護部長 佐藤 洋一 小林副学長 小川理事長 祖父江学長 三浦副学長 三浦薬学部長 吉田 達朗 藤村 朗

理事会報告 (2月定例ー2月25日開催)

1. 役職者の選任について
2. 理事の選任について
 第5号理事 佐々木 真理
 (任期 平成31年4月1日から令和3年2月22日まで)
3. 教員の人事について
4. 職員の人事について
5. 組織規程の一部改正について
 平成31年度に予定される新病院開院や事務局本部の矢巾移転計画に伴い、図書館における本館・分館の名称及び分館長の名称・役割を見直すこと、また、近年の医学教育において、医療安全教育及び技能教育が重視され、シミュレーション教育が必須となっていることから、学

- 内で共同利用が望ましい機器の集約を含め、全学的にシミュレーション教育を促進するため、全学的組織としてシミュレーションセンターを設置すること、本年3月末で附属花巻温泉病院を閉院することに伴い、組織規程を一部改正することについて承認
 (施行年月日 平成31年4月1日)
6. 内丸・矢巾地区整備事業資金および償却資産引当特定資産の積立計画について
 7. 岩手看護短期大学の看護師学校指定取消申請について
 8. 矢巾キャンパスA敷地の改修計画について
 9. 検体検査部門に係る新規購入機器の選定について

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 佐藤真結美
 影山 雄太 菊池 初子
 松政 正俊 工藤 正樹
 齋野 朝幸 熊谷 佑子
 藤本 康之 安保 淳一
 白石 博久 佐々木 忠司
 成田 欣弥 畠山 正充
 遊田由希子 藤村 尚子
 佐藤 仁 武藤千恵子
 小坂 未来 高橋 慶
 藤澤 美穂

編集後記

冬の厳しさも少しずつ緩み、春の訪れを感じ始める季節になりました。
 昨年より編集委員となり2回目の担当になりましたが、まだまだたすけてもらってばかりです。大学報ならではの、役に立つ、そして楽しい情報を提供出来るよう日々努力していくつもりです。
 今号が皆様のお手元に届くころには、桜前線も近づいているかと思えます。桜の香りでもリフレッシュし、新鮮な気持ちで今年度をスタートしていければと思います。
 (編集委員 藤村 尚子)

岩手医科大学報 第511号

発行年月日 平成31年4月30日
 発行 学校法人岩手医科大学
 編集委員長 小川 彰
 編集 岩手医科大学報編集委員会
 事務局 法人事務部 総務課
 盛岡市内丸19-1
 TEL. 019-651-5111 (内線4220)
 FAX. 019-654-7563
 E-mail: kouhou@iwate-med.ac.jp
 印刷 河北印刷株式会社
 盛岡市本町通2-8-7
 TEL. 019-623-4256
 E-mail: office@kahoku-ipm.jp